



## 沈 澱 藍

6月分

### はじめに

今年は例年より1ヶ月早く藍を植えたので、早くも刈り取りを始めました。天候にも恵まれ、今年は順調に育っています。これからも穏やかな日々が続くことを祈っております。

### 沈 澱 藍 について

現在、日本における藍染めのほとんどは、すくもを使って行われています。

一方、インドや中国では、藍草の種類が異なるため、沈澱させて作る方法で行われています。私が最初に出会った藍染めは、この方法でした。自分で作ることができるので、自作の藍で20年も前から染めています。その中で色々な染め方を試みた結果、手描きができる事に大きな意義を感じ、作った沈澱藍のほとんどを手描き作品に使用しています。今回は色のバラエティを楽しむため、いろいろと実験を試みました。お送りした沈澱藍の量でも建てれば文字が書けます。私がお勧めしたい、一番の方法です。この方法・染め方は11月に解説しますので、今回はしっかり学んで良い沈澱藍を作ってください。

### 沈 澱 藍 の 取 り 方

沈澱藍の取り方を、2つの方法（A、B）に分けて解説します。

**A**

最初に紹介しますこの方法は、藍を多量に作った方に向きます。

（ガイドブック130頁～参照）

藍は朝露に濡れている間か、雨の日に刈ります。乾くと藍の成分が水に溶け出なくなるからです。二作目を取るために、根から10cm程残して刈ります。もちろん刈った後肥料をやります。雨の後など泥が付いていますのでさっと洗い流します。

ポリバケツの中に茎ごと葉を入れ、重ねて置きます。あまりギュウギュウ詰めにし  
ないのもコツです。茎や葉がかくれる程水を入れます。上から棒を組んだり網など  
を置き、その上に重石をします。漬け物の様に何個も重石をするのではなく、葉が水  
から顔を出さない程度で結構です。雨が入らなければ蓋をすることはありません。

4 8時間くらい経つと、液の色が濃い緑色に変化します。プツプツと泡が上に浮  
いてくる様になります。これが醗酵のしるしですから、棒で底の方をつついて、泡  
が出やすいよう促してやります。この大切なポイントを見過ぐすと、醗酵が過ぎて  
上澄みが濁ってしまいます。(写真A-1)

この時を見極めて重石を除けます。葉が黄変していますので、取り出します。こ  
れも畑の肥やしになりますが、藍独特の匂いに加えて、醗酵臭がしますので、大変  
な作業です。都会の中ではご近所に心配りのいる作業となります。残りの液は、ザ  
ルの上に布を置いてきれいに漉します。この中へガイドブックを参考にして石灰液  
を作り、入れます。(写真A-2) (写真は100ℓ容器に150 gの石灰を入れています。容  
器が小さくなるほど石灰の割合を大きくします。)お風呂のかき混ぜ棒やカイで液を  
混ぜます。200~300回混ぜていますと、緑色が濃くなり、白い泡が出ます。1000回  
くらい混ぜると緑色だった液が急に青色に変わり、泡の色が青紫色になります。そ  
の途端、悪臭が良い匂いに変わります。不思議な現象です。(写真A-3)

注) 石灰は、水がかかったり古かったり、また農業用(苦土石灰)では使えません。

工業用消石灰を使ってください。

攪拌をやめて一日置きます。上澄みの色が茶色がかった透明な色になりますので、  
ポリ容器を倒すようにして少しづつ捨てていきます。大量の場合の攪拌は、ガイド  
ブックのようにモーターを使用すると早くできます。いつまで経っても表面の色が  
緑色の時は、石灰を足してみてください。

ポリ容器の大半は上澄みですが、捨て口を見ているとスーッと紺の沈殿物が見え  
るようになると手を止め、静かに置きます。ある程度上澄みがなくなったら、透明  
のビンやペットボトルのような入れ物に移し換えて保存してください。

表面にカビが浮くことがあります。使用する時に取り除けば大丈夫です。何年  
も保存して使用できますが、乾燥してパラパラになる時があります。そうになると色  
が悪くなりますので、蓋をきちんとしてください。

リュウキュウ藍も同じように刈って水漬けにして使用します。藍の色素を含む量  
がタデ藍より多いので沈殿物が多く出来ます。なお、葉を取った後の茎は、さし木  
してまた殖やしてください。

※公開はここまでです。